

## ケース「ナカシマプロペラ株式会社<sup>1</sup>」

－本業の成長と多角化戦略－

### 成長の軌跡

ナカシマプロペラ株式会社は岡山県岡山市に本社を構える船舶用プロペラ<sup>2</sup>の世界一の専門メーカーで、大型プロペラでは国内 70%、世界 30%のシェアを持っている。これまで作ったプロペラは 100 万個以上、30 万 t を超えるタンカーから競艇用のボートまで多種多様なプロペラ作りに取り組んでいる。

1926 年の創業以来、中島家を中心とした同族企業として発展し、現在は二代目社長を務めた中島保名誉会長の長男である中島基善が第四代の代表取締役社長を務めている。

資本金 1 億 3,000 万円、グループ企業 5 社、従業員数 431 人（男性 400 人、女性 45 人。2006 年 11 月 30 日現在）、2006 年 11 月期の売上高は 187 億円、グループ全体の売上高は 211 億円である。

### 沿革

ナカシマプロペラ株式会社は 1926 年（大正 15 年）に鳥取県出身の創業者中島善一によって設立された。もともと鑄造所で働いていた善一が鑄造の技術を用いて岡山市下石井で中島鑄造所を創業したところから始まった。銅合金を主体にした鑄造技術を使って、自社ブランドで自社製品を作りたいという思いからプロペラにしぼった。漁船が帆船から動力船に切り替わるタイミングもあって、漁船用プロペラの製造を始めた。妻の松子も乳飲み子を背負って瀬戸内海の鉄工所にプロペラを売り歩き、夫婦ともに苦労を重ねながら会社を大きくしていった。

戦時中は主に上陸用舟艇のプロペラを製造していたが、終戦直前の 1945 年 6 月

---

<sup>1</sup>本ケースは、ナカシマプロペラ株式会社の協力を得て、独立行政法人中小企業基盤整備機構経営支援情報センターが、山口大学大学院技術経営研究科と連携して開発したものである。また、このケースは、同センター渡邊有貴リサーチャーが、同大学院大久保隆弘教授の指導の下で執筆を担当し、更に同センター檜山昭信ディレクターが加わった開発チームで作成したものである。また、クラス討議の資料として作成されたものであり、特定の経営管理に関する適切又は不適切な例示をすることを意図したものではない。本ケースの著作権は、独立行政法人中小企業基盤整備機構に帰属する。（2007 年 3 月）

<sup>2</sup> 飛行機のプロペラではなく、船舶用のスクリューである。正式には、スクリュープロペラと言う。